

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

さてそれでは、子どもの発する声との間に、いったいどのようなようにして共感的応答関係をつくっていけばいいのでしょうか。

残念ながら、保育の世界にこうした関係をつくる特効薬のようなものは存在しません。それぞれの子どもの特性に応じて、試行錯誤をくり返す過程で、それぞれの「共感関係」を発見していくしかないのです。しかしながらそれでも、まったく打つ手がないわけではありません。

先に、保育者の対話能力は「共感力」と「ひらめき力」で構成されると整理しましたが、このうち、努力を重ねることである程度いい関係を築くことができるのが「共感力」です。たとえば私自身は「とりあえず共感の習慣」と呼んできましたが、子どもの発した言葉に「まずは共感」という感じで言葉を返していくのです。単純なことですが、この対応を意識し、習慣化することで、かなり関係は変わっていきます。それは先に紹介したタツキさんとノブさんの事例でもいえることです。

改めて書かれた記録を読み返してもらおうとわかりますが、二人の言葉・行動に応答する佐藤さんの最初の言葉が、ことごとく「共感」の対極に位置する言葉（注）になっていることがわかります。それは佐藤さんの中に、「とりあえず共感の習慣」が身体化していないことと深くかかわっているのですが、そこを少し意識するだけで、次に記す場面だってまったく違う関係になっていったと思います。

保育者「じゃあ、おふとんにゴロンしようか。ほかの友だちも寝てるからね」

タツキ 立ち上がり、何度もふとんのシーツを敷き直す。

ノブ タツキを見て、同じようにふとんのシーツを敷き直す。

保育者「ねえ、寝ないと疲れてお熱出ちゃうよ！ゴロンして！」

タツキとノブは顔を見合わせ、声を出して笑い出す。

ふとんのシーツを敷き直す二人に、佐藤さんは「ねえ、寝ないと疲れてお熱出ちゃうよ！」と説得の言葉をかけるのですが、いくら佐藤さんにはふざけているように見えたとしても、ここはシーツを敷き直して寝る準備をしている場面なのです。

「ふとん、きれいにしてるんだ！きれいになると気持ちよく寝れるもんね！」

こんな感じで言葉を返すことができたとしたら、二人だって「ウン！」と誇らしげな言葉を出しながら、佐藤さんとの会話を期待する空気になっていったのではないのでしょうか。

自分の声を聴きとられた子どもの中には「安心」と「信頼」の感覚が生まれます。「安心」と「信頼」の感覚が大きくなると自分の中に余裕が生まれ、子どものほうから「対話」の準備をは

じめるようになってきます。つまり、自分の声を聴きとられた子どもだけが、相手の声を自分の中に取り込むことができる、そんな人間に育っていくのです。

もっともこんなことをいうと、「そうはいうものの、子どもの行動や言動は、共感できるものばかりではありません」と反論したくなる保育者がいるかもしれません。そんな保育者におすすめしたいのが、子どもの行動や言動を二つに分割し、受け止め可能な内容だけを肯定的に受け止める方法です。

子どもの行動や言動には、必ず何か意味があります。どんなに否定的に見える行動にも、その子なりの意味が存在しています。つまり、子どもの行動や言動の中には、保育者が「受け止めることができる内容」が必ず潜んでいるのです。

子どもの声を聴き、行動を目にしたとき保育者は、瞬時に「受け止めることができる内容」と「受け止めることができない内容」の間に線を引き、自分が「受け止めることができる内容」の部分だけを受け止めればよいのです。たとえば先の事例で言うところ、「ふざける」行為は受け止めることができなくても、「ふとんを敷き直す」行為は受け止めることができるのです。

重要な点は、こうして自分の行動や言葉を受け止めてもらった子どもだけが、相手の声に耳を傾ける準備をはじめるといふ事実の中にあります。小さな子どもたちは、自分の声を共感的に受け止めてくれない人の声を、わざわざ自分の中に取り込もうとはしません。だから、「とりあえず共感の習慣」を身につけることができると、それだけで保育者の声に能動的に耳を傾けようとする子どもを育てることが容易になっていくのです。

(注1) 「共感」の対極に位置する言葉

ここで『共感』の対極に位置する言葉と呼んでいるのは、もちろん「否定の言葉」だけではありません。

子どもの言葉・行動を意図的に無視する場合も、つい見落としてしまう場合も、あるいは誤解して応答してしまう場合も、それらすべてが『共感』の対極に位置する言葉になります。要は、子どもが「共感」してもらっていないと感じる言葉・行動は、『共感』の対極に位置する言葉になってしまいます。

(加藤繁美 『希望の保育実践論Ⅰ』保育の中の子どもの声)

※設問のために一部改変

問い一 本文を二〇〇字程度で要約しなさい。

問い二 大人から自分の行為・言葉を受け止めてもらうことは、子どもにとってどのような育ち・成長につながると考えますか。二〇〇字程度にまとめて述べなさい。